

第二日目 6月1日(日) A会場 共北25講義室(定員125名)

8:30		発表登録受付	
9:00 A-20	文化遺産としての近代化産業遺産とその価値付けー「世界遺産」と「世間遺産」のはざまでー	永吉 守	久留米高専非常勤講師ほか
9:20			
9:25 A-21	職業としての地域づくりーフランス地域自然公園の「公園の家」で働く人びとー	出口 雅敏	早稲田大学
9:45			
9:50 A-22	「国土」形成の多様性ートルコにおける「国土」創出と古代アナトリア文化遺産ー	田中 英資	ケンブリッジ大学
10:10			
10:15	【準備委員会企画 分科会】ネオリベラリズムの時代における人類学の可能性		
12:15	【代表者】松田 素二		
A-23	趣旨説明	松田 素二	京都大学大学院文学研究科
A-24	ネオ・リベラリズムの時代におけるモース人類学再読	渡辺 公三	立命館大学大学院先端総合学術研究科
A-25	ネオリベラリズムの「合理性」の「魔術」ー人類学の反時代性に関する一考察ー	岡崎 彰	一橋大学
A-26	お気に召すままー新自由主義の時代における生活世界に宿る欲望への人類学的視座ー	青木 恵理子	龍谷大学社会学部
A-27	不可能な時代の人類学的営為	大澤 真幸	京都大学大学院人間・環境学研究科
A-28	批判と連帯ー日韓間の歴史言説に関する省察ー	板垣 竜太	同志社大学

12:15-13:15		昼食	
13:15-15:35		総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)	
15:40 A-29	ネパールのカースト社会における観光産業と社会的弱者ーポカラの観光産業に対するタカリ族などマトワリ少数民族の貢献ー	山本 勇次	大阪国際大学
16:00			
16:05 A-30	観光文化創出における支配的文化への適応過程ーマニラのリサール公園における都市貧困層の事例ー	四本 幸夫	立命館大学
16:25			
16:30 A-31	「観光の文脈」と「本来の文脈」ーケニア・サンブルの観光地への出稼ぎの事例よりー	中村 香子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
16:50			
16:55 A-32	「食の観光」とおひとりさまーインドネシア都市部の食生活の変容ー	阿良田 麻里子	国立民族学博物館
17:15			
17:20 A-33	エスニック観光開発と地元民の対応ー中国広西三江トン族・程陽景区の事例からー	兼重 努	滋賀医科大学
17:40			
17:45 A-34	プロセスとしての観光ー日本人による東・東南アジア観光を事例としてー	田中 孝枝	東京大学大学院総合文化研究科
18:05			

第二日目 6月1日(日) B会場 共北26講義室(定員125名)

8:30		発表登録受付	
9:00 B-20	越境のサービス・マネジメントにおける日本文化というディス ブレイー国際線航空機の仕事の人類学ー	八巻 恵子	京都大学大学院経営管理研究部 サービス・イノベーション
9:25 B-21	合衆国の博物館展示にみる戦争の記憶ー歴史リテラシーを 9:45 培う人類学実践ー	田川 泉	
9:50 B-22	政治のフォーラムとしての博物館ー日・西欧・北比較考察ー	スチュアート ヘン 10:10 リ	放送大学
10:15	【分科会】先住民とは誰か？		
12:15	【代表者】窪田 幸子		
B-23	趣旨説明	窪田 幸子	広島大学大学院総合科学研究科
B-24	オーストラリア辺境に暮らすアボリジニの交渉	窪田 幸子	広島大学大学院総合科学研究科
B-25	先住民は何になろうとしているのか？ーカナダ・ヌナウト準 州のIQ問題にみる先住民の未来ー	大村 敬一	大阪大学
B-26	アイヌの「文化」とは？	野本 正博	財団法人アイヌ民族博物館
B-27	開発政策と先住民運動のはざまでーボツワナの再定住地 に暮らすサンの事例からー	丸山 淳子	京都大学大学院アジア・アフリ カ地域研究研究科
B-28	先住民研究における人類学の領分ー国際機関・環境主義・ 社会正義ー	高倉 浩樹	東北大学東北アジア研究セ ンター

12:15-13:15		昼食	
13:15-15:35		総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)	

15:40 B-29	「本当の自分」とは誰か？ー現代日本のある性風俗店にお 16:00 ける名前の考察ー	熊田 陽子	お茶の水女子大学
16:05 B-30	強壮剤から見た男性身体	田中 雅一	京都大学人文科学研究所
16:25			
16:30 B-31	徴兵制が生み出す軍事共同体と日常ー韓国の大学におけ 16:50 る「徴兵制の社会表象」と日常実践ー	朴 眞煥	京都大学大学院人間・環境 学研究科
16:55 B-32	ケニア・ルオ社会における「儀礼的」性交とは	椎野 若菜	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所
17:15			
17:20 B-33	メキシコの男性同性愛者のクリスチャーモンテレイ市のメ 17:40 トロポリタン・コミュニティ・チャーチの事例ー	上村 淳志	一橋大学大学院社会学研究 科
17:45 B-34	ニューギニア、テワダ社会における「性」の語られ方	田所 聖志	立正大学文学部
18:05			

第二日目 6月1日(日) C会場 共北27講義室(定員125名)

8:30		発表登録受付	
9:00 C-20	妖術師と公正な社会ーまたもうひとつの人格論ー	中川 敏	大阪大学大学院人間科学研究科
9:20			
9:25 C-21	妖術師はいない方がよいのか？ータイ山地民ラフの憑きもの現象ー	片岡 樹	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
9:45			
9:50 C-22	フィリピン・ワライ語集団にみられる妖術・邪術と社会構造	細田 尚美	京都大学東南アジア研究所
10:10			
10:15	【分科会】Rethinking “the Visual” and “the Anthropological”		
12:15	【代表者】田沼 幸子		
C-23	趣旨説明	田沼 幸子	大阪大学大学院人間科学研究科GCOE特任研究員
C-24	<あいだ>の言葉を聞きとることー人類学者と映像の可能性ー	田沼 幸子	大阪大学大学院人間科学研究科GCOE特任研究員
C-25	視覚的／映像とは何かを再考する	根来 祐	映像作家
C-26	「鏡の裏側」を表象するということーメキシコ・チアパス地域先住民の実践からー	佐々木 祐	京都大学
C-27	「撮る」と「撮られる」のあいだ	岡田 秀則	東京国立近代美術館フィルムセンター
C-28	映像と社会	内海 博文	関西学院大学

12:15-13:15		昼食	
13:15-15:35		総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)	

15:40 C-29	ラオス南部のカントウの居住空間の変容	西本 太	京都大学東南アジア研究所
16:00			
16:05 C-30	開発モデル村の現在ーフィジー、ダク村落の開発事業の継承と変化ー	丹波 典生	法政大学
16:25			
16:30 C-31			
16:50			
16:55 C-32	コメは買うものか、作るものかーフィリピン、イフガオの食生活に関する研究ー	堀 巴美	早稲田大学大学院文学研究科
17:15			
17:20 C-33	民俗的知識・所有・関係性ーメキシコにおける生物資源探索プロジェクトを事例としてー	中空 萌	東京大学大学院総合文化研究科
17:40			
17:45 C-34	アイス王国を築いた村ーメキシコ、ミチョアカン州の貧農たちの経済ネットワークと村の発展ー	増山 久美	拓殖大学非常勤講師
18:05			

第二日目 6月1日(日) D会場 共北28講義室(定員125名)

8:30		発表登録受付	
9:00 D-20	トランスローカル・アートの可能性ー「第四世界的状況」の民族誌へー	内藤 順子	日本学術振興会特別研究員(PD)／日本女子大学
9:20			
9:25 D-21	生活と模倣、擬態ー「第四世界的状況」の民族誌へー	磯田 和秀	成城大学民俗学研究所
9:45			
9:50 D-22	異装を纏うー第四世界的状況の民族誌へー	國弘 暁子	神奈川大学
10:10			
10:15	【分科会】「Non-native」人類学者による日本の村のフィールドワーク		
12:15	【代表者】マイケル シャクルトン		
D-23	趣旨説明	マイケル シャクルトン	大阪学院大学
D-24	農業における雇用労働力の活用と農村地域の変容ー中山間地域トマト栽培と里山農業の事例からー	鷺見 淳	テンブル大学日本校
D-25	地方から都市部への人口流入ー山間の小さな村の過疎化ー	ジョン モック	筑波大学
D-26	農業により形成される自然資源供給地の構成要素と空間構造ー歴史GISで見る1880年代の関東平野の農村景観ー	デイビッド スプレイグ・岩崎亘典	農業環境技術研究所
D-27	「郷に入っては」ー村落社会における長期調査の研究報告ー	加留 龍	
D-28	心境ー奈良県の共同体のフィールドワークー	マイケル シャクルトン	大阪学院大学

12:15-13:15		昼食	
13:15-15:35		総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)	

15:40 D-29	「野球移民」とは何か？ードミニカ共和国におけるスポーツの「土着化」ー	窪田 暁	総合研究大学院大学文化科学研究科
16:00			
16:05 D-30	コミュニケーション・ツールから見た第二世代のトンガ人のネットワークーオーストラリア・メルボルンにおける調査からー	西谷 真希子	首都大学東京大学院
16:25			
16:30 D-31	小辻誠祐とハルビン、ユダヤ人コミュニティ	佐藤 泉	東洋学園大学人文学部
16:50			
16:55 D-32	映像人類学と民族誌映画ー理論と実践ー	村尾 静二	総合研究大学院大学
17:15			
17:20 D-33	ショー・パフォーマンスを生み出す現場ーウガンダの首都カンパラの「カリオキ・ショー」ー	大門 碧	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
17:40			
17:45 D-34			
18:05			

第二日目 6月1日(日) E会場 共北31講義室(定員125名)

8:30	発表登録受付		
------	--------	--	--

9:00 E-20	人類学としてのマヤ文明の研究ー古典期マヤ人の日常生活と政治経済組織ー	青山 和夫	茨城大学
9:20			
9:25 E-21	先スペイン期アンデスにおける小規模遺跡からみた国家形成	土井 正樹	日本文化人類学会会員
9:45			
9:50 E-22	縄文=弥生期日本語の形成(コ源郷抜L)論に必要な若干の新視点ービブシサマル期、同音異義語、粟こよみー	郭 安三	沖縄文化協会
10:10			
10:15	【分科会】「仕事の人類学」が拓く地平ー労働・ジェンダー・社会変容ー		
12:15	【代表者】中谷 文美		
E-23	趣旨説明	中谷 文美	岡山大学大学院社会文化科学研究科
E-24	マレーシア、サラワク州のイバンおよびシハン社会における「労働」と「仕事」	石川 登	京都大学東南アジア研究所
E-25	東北タイ農村における女性の「仕事」をめぐる社会的評価ー1960年代以降の労働移動の事例からー	木曾 恵子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
E-26	ブルガリアにおける「仕事」の布置と社会変容ー社会主義、ポスト社会主義、およびEUの枠組みのなかでー	松前 もゆる	明治学院大学非常勤講師
E-27	ジェンダーの視点からみる労働という概念	宇田川 妙子	国立民族学博物館
E-28	現代オランダ社会における主婦の「仕事」、母の「仕事」ー日本・インドネシアとの比較を通じてー	中谷 文美	岡山大学大学院社会文化科学研究科

12:15-13:15	昼食		
13:15-15:35	総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)		

15:40 E-29	コンテクスチュアルなものとしての伝統ー北インド・ダラムサラ在住チベット難民舞踊集団を事例にー	山本 達也	京都大学大学院
16:00			
16:05 E-30	伝統の「復活」をめぐるエスニシティー中国内モンゴル自治区オールドス地方における白いスウルデ祭祀事例を中心にー	ソロンガ	愛知県立大学大学院国際文化研究科
16:25			
16:30 E-31	ベトナム人の「現在」における「過去」ーメコンデルタ農民の事例ー	渋谷 節子	ジュネーブ現代アジア研究所
16:50			
16:55 E-32	出し入れされる伝統ー燃料価格高騰を受けたアラスカ先住民のサケ漁における変化に関する考察ー	井上 敏昭	城西国際大学福祉総合学部
17:15			
17:20 E-33	「ペイガニズム」という伝統ー英国グラストンベリーの人々との交流から見えてくるものー	河西 瑛里子	京都大学大学院人間・環境学研究科
17:40			
17:45 E-34	環境言説による経験知の意味づけーツバルにおける海面上昇の語りを事例にー	小林 誠	首都大学東京大学院社会科学研究科
18:05			

第二日目 6月1日(日) F会場 共北32講義室(定員125名)

8:30		発表登録受付	
9:00 F-20	拡大性とネットワークの構築ー東南アジアにおける華人教団徳教を事例としてー	黄 蘊	北陸大学
9:20			
9:25 F-21	ラスタファリアン集団の経済活動の変化と集団の再編成ージャマイカ、エチオピア・アフリカ国際会議派のレゲエ活動の事例ー	神本 秀爾	京都大学大学院人間・環境学研究科
9:45			
9:50 F-22	アメリカ合衆国における黒人運動ーオリシャ崇拝・コミュニティと地域社会との関係ー	小池 郁子	京都大学人文科学研究所
10:10			
10:15	【分科会】平和の人類学		
12:15	【代表者】小田 博志		
F-23	趣旨説明	小田 博志	北海道大学大学院文学研究科
F-24	和解と他者ー第2次世界大戦後ドイツにおける和解運動の事例を通してー	小田 博志	北海道大学大学院文学研究科
F-25	国民和解にみる儀礼の流用ー東ティモール受容真実和解委員会の活動を事例にー	福武 慎太郎	名古屋市立大学
F-26	核汚染の解決ーマーシャル諸島ロンゲラップ共同体ー	中原 聖乃	名古屋市立大学
F-27	平和祈念と宗教的感受性ー沖縄の民間巫者による戦死者の感受と平和ー	佐藤 壮広	恵泉女学園大学
F-28	「平和構築」と文化人類学の課題ースリランカの紛争からー	足羽 與志子	一橋大学

12:15-13:15		昼食	
13:15-15:35		総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)	

15:40 F-29	社会主義政権下の宗教実践ー「ホーチミン主席の首都ハノイ聖室訪問60年記念儀礼」を事例としてー	佐藤 まり子	総合研究大学院大学文化科学研究科
16:00			
16:05 F-30	現代ロシアにおける宗教的求道と「歴史」の選択ーカタコンベ正教会のネオ旧教徒たちー	藤原 潤子	国立民族学博物館
16:25			
16:30 F-31	暗黙知としての呪術と境界の想像カーロシア・チュヴァシの事例ー	後藤 正憲	
16:50			
16:55 F-32	精霊憑依のコミュニティー北タイ、チェンマイの基柱の守護精霊を崇拝する霊媒集団とその宗教実践ー	福浦 一男	立命館大学非常勤講師
17:15			
17:20 F-33	台湾原住民における首狩の諸相	山田 仁史	東北大学
17:40			
17:45 F-34	山形県村山地方のムカサリ絵馬習俗について	伏見 祐紀	放送大学
18:05			

第二日目 6月1日(日) G会場 共北37講義室(定員125名)

8:30		発表登録受付	
9:00 G-20	問題化されるブタのにおいー戦後沖縄における食肉供給の「近代化」を背景にー	比嘉 理麻	筑波大学大学院人文社会科学研究所
9:25 G-21	居住による遺跡破壊と地域住民主導の遺跡保護活動ーペルー共和国カハマルカ県ハエン郡ボマワカ地区Y集落を事例にー	山本 睦	総合研究大学院大学／日本学術振興会特別研究員
9:45 G-22	メキシコ市内旧先住民村落(Los pueblos originarios)における「地元民」組織	禪野 美帆	関西学院大学商学部
10:10			
10:15	【分科会】重層化する民族・地域社会といかに関わるかー「他者」の眼、「自己」の眼、人類学者の眼ー		
12:15	【代表者】王 柳蘭		
G-23	趣旨説明	王 柳蘭	京都大学
G-24	「難民」を通じて移動を考えるー北タイ国境の雲南系華人の声からー	王 柳蘭	京都大学
G-25	「ネイティブ」と「ノン・ネイティブ」の対立をこえてー先住ハワイアンと移民にルーツをもつ人類学者の実践からー	城田 愛	大分県立芸術文化短期大学
G-26	対話する文化人類学ーパラオにおける博物館展示制作の体験からー	三田 牧	国立民族学博物館
G-27	シルック王クウォンゴとの対話ーわれわれの手で平和をもたらしましょうー	縄田 浩志	総合地球環境学研究所
G-28	フィールドの変容にどのように向き合うかー人類学的研究のはらむ権力性についての議論を再考するー	金谷 美和	日本学術振興会

12:15-13:15		昼食	
13:15-15:35		総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)	

15:40 G-29	モンゴル牧民社会における郊外化現象	尾崎 孝宏	鹿児島大学
16:00			
16:05 G-30	社会主義時代のモンゴル人女性の理想と実態に関してー人口増加政策と「子だくさんの母」への評価策を中心にー	とるむんふ お どんとや	東北大学大学院環境科学研究科
16:25			
16:30 G-31	現代モンゴル社会における父系的親族構造の解体ー父系的親族集団、親族名称・カテゴリー、親族関係の変化ー	田中 華子	名古屋大学大学院法学研究科
16:50			
16:55 G-32	環境政策によるモンゴル牧畜民の社会的・文化的変容ー中国エゼネ旗における「生態移民」の事例からー	児玉 香菜子	総合地球環境学研究所
17:15			
17:20 G-33	虚心(sems chung)と高慢(dpa' skye)ー現代チベット、ラサにおける貴族集団の存続とそのロジックー	大川 謙作	東京大学東洋文化研究所
17:40			
17:45 G-34	雲南チベット族の牧畜業ータンディアオ家の場合ー	田畑 久夫・金丸 良子	昭和女子大学／麗澤大学
18:05			

第二日目 6月1日(日) H会場 共北38講義室(定員125名)

8:30	発表登録受付		
------	--------	--	--

9:00 H-20	台湾東部と沖縄先島諸島にみる越境現象	上水流 久彦	県立広島大学
9:20			
9:25 H-21	海を越える文化的適応ー近代八重山諸島竹富島における出作りを事例としてー	藤井 紘司	早稲田大学大学院人間科学研究科
9:45			
9:50 H-22	戦後台湾原住民社会の変化と台湾の地方行政	松岡 格	東京大学大学院総合文化研究科
10:10			
10:15	【分科会】アクションというフィールド		
12:15	【代表者】亀井 伸孝		
H-23	趣旨説明	亀井 伸孝	東京外国語大学
H-24	異文化理解の姿勢を教室で教えるーワークショップ型授業の功罪ー	亀井 伸孝	東京外国語大学
H-25	モンゴル公教育における母語インターフェースパソコンの運用ー学生派遣とパソコン寄贈を通じ現地を手伝うー	吉野 太郎	関西学院大学総合政策学部
H-26	カメルーンにおける森と人の共存にむけてー研究成果を分かちあうー	服部 志帆	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
H-27	アフリカ諸語による教育と言語権ー母語教育のゆくえをのぞむー	米田 信子	大阪女学院大学
H-28	アクションを待つフィールドー暴力問題にまきこまれてー	飯嶋 秀治	九州大学大学院

12:15-13:15	昼食		
13:15-15:35	総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)		

15:40 H-29	倫理の起源ーサラワク・プナン社会における人間、雷神、動物ー	奥野 克巳	桜美林大学
16:00			
16:05 H-30	狩猟活動の衰退と野生動物に関する知識の関係ー事例:セントラル・カラハリ・サンの少年たちー	秋山 裕之	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
16:25			
16:30 H-31	アンデス発の牧畜論再考ーヒマラヤ、モンゴルとの比較からー	稲村 哲也	愛知県立大学
16:50			
16:55 H-32	ムースハイドスキンが語るものーカナダ、ユーコン準州の先住民カスカのヘラジカ狩猟活動系と資源利用ー	山口 未花子	北海道大学
17:15			
17:20 H-33	Ethnobotanical Knowledge of the Eastern Penan of Sarawak, Malaysia	小泉 都	京都大学総合博物館
17:40			
17:45 H-34			
18:05			

第二日目 6月1日(日) I会場 共B03講義室(定員98名)

8:30	発表登録受付		
------	--------	--	--

9:00 I-20 9:20	現代中国における気功実践の動態	ウチラルト	一橋大学大学院社会学研究科
9:25 I-21 9:45	政治空間における葛藤－国家・権力関係・教会－中国陝西省関中平原カトリック村におけるポリティックス－	李 雯文	京都文教大学
9:50 I-22 10:10	上海プロテスタントの宗教空間－宗教政策と経済発展のはざまでの変化－	村上 志保	立命館大学
10:15 12:15	【分科会】人種の表象 【代表者】竹沢 泰子		
I-23	趣旨説明	竹沢 泰子	京都大学
I-24	混血研究の政治学－エリザベス・サンダース・ホームと人類学者たち－	坂野 徹	日本大学経済学部
I-25	帝国期日本における人種の「表象」と「表象化」－琉球弧住民の事例を中心に－	與那覇 潤	愛知県立大学
I-26	西洋における人種ならびに人種主義の言説と日本における人種概念の具像化	ジョン ラッセル	岐阜大学
I-27	アジア系アメリカ人芸術家たちの自己表象と抵抗－ポスト多文化主義の現在－	竹沢 泰子	京都大学
I-28	「人種平等社会」における人種主義－ベネズエラのマスメディアにみる黒人排除とステレオタイプ－	石橋 純	東京大学

12:15-13:15	昼食
13:15-15:35	総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)

15:40 I-29 16:00	シボ族の文化変化	丸山 孝一	九州大学
16:05 I-30 16:25			
16:30 I-31 16:50	エスニックカテゴリーと民俗文化－陸に住む水上居民、漁業をしない漁民－	稲澤 努	東北大学大学院
16:55 I-32 17:15	空間化されゆく客家文化－広東省梅州市の民間信仰を事例として－	河合 洋尚	嘉応大学客家研究院
17:20 I-33 17:40			
17:45 I-34 18:05			

第二日目 6月1日(日) J会場 共B02講義室(定員115名)

8:30		発表登録受付	
9:00 J-20	病い、苦悩、道徳－生命倫理の人類学的研究序論－	岩佐 光広	千葉大学大学院社会文化科学研究科
9:20			
9:25 J-21	医療者の抵抗、患者の抵抗－北部タイ・HIV/AIDS感染者をめぐる治療／生活空間からの一考察－	日野 智豪	タマサート大学教養学部
9:45			
9:50 J-22	生物医療のグローバリティを考える－インドにおける医師、患者、情報の移動を事例として－	梅村 絢美	首都大学東京
10:10			
10:15	【分科会】医療人類学を学ぶこと/教えること		
12:15	【代表者】池田 光穂・奥野 克巳		
J-23	趣旨説明	池田 光穂・奥野 克巳	大阪大学／桜美林大学
J-24	看護学生にとっての医療人類学の意味	福井 栄二郎	日本学術振興会／国立民族学博物館
J-25	看護教育におけるPBL医療人類学	倉田 誠	神戸大学大学院総合人間科学研究科
J-26	看護実践と医療人類学の間	阿保 順子	北海道医療大学
J-27	教育を通じた人類学的デモクラシーの実践	池田 光穂	大阪大学
J-28	医療人類学の原液	奥野 克巳	桜美林大学

12:15-13:15		昼食	
13:15-15:35		総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)	

15:40 J-29	マニラにおいてモロ／ムスリム性を表象すること－フィリピンのマニラ首都圏における土地紛争の事例より－	渡邊 暁子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
16:00			
16:05 J-30	ニューカレドニアにみるモダンアリーナとしての文化顕示－チバウ文化センターにおけるモダンアートへの挑戦－	江戸 淳子	杏林大学外国語学部
16:25			
16:30 J-31	旭川におけるアイヌ儀礼の復興活動－2005年のクマ送り儀礼を中心に－	百瀬 響	北海道教育大学札幌校
16:50			
16:55 J-32	ネイティブ人類学の試み－「境界性の人類学－重層する沖永良部島民のアイデンティティ」－	高橋 孝代	ライデン大学
17:15			
17:20 J-33	政治的アイデンティティとしての「マヤ(民族)」	太田 好信	九州大学比較社会文化研究院
17:40			
17:45 J-34			
18:05			

第二日目 6月1日(日) K会場 共B01講義室(定員70名)

8:30	発表登録受付
------	--------

9:00 K-20
9:20

9:25 K-21
9:45

9:50 K-22
10:10

10:15 【映像分科会】「暮らし」をとらえた映像
12:15 【代表者】村尾 静二

K-23 「暮らし」をとらえた映像ー映像人類学上映会ー	村尾 静二	総合研究大学院大学
K-24 モンゴル国の銀鍛冶師による指輪づくり	風戸 真理	京都大学地域研究統合情報センター
K-25 映像上映『老いの時空』	村尾 静二	総合研究大学院大学
K-26 暮らしの中の老い	南出 和余	京都大学地域研究統合情報センター
K-27 しずかな生活	清水 郁郎	大同工業大学
K-28		

12:15-13:15	昼食
13:15-15:35	総会・受賞講演会(吉田南4号館・4共30)

15:40 【映像分科会】儀礼に関する映像人類学上映会
17:40 【代表者】鈴木 岳海

K-29 趣旨説明 儀礼に関する映像人類学	鈴木 岳海	立命館大学映像学部
K-30 御嶽講(教)に見る巫術の伝承	長島 節五	日本映像民俗学の会
K-31 人と精霊をとりなすーエチオピア・聖地ファラカサでの治療儀礼ー	松波 康男	南山大学大学院人間文化研究科
K-32 変わりゆく「伝統」ートルコ・アレヴィーの儀礼ジェムー	米山 知子	国立民族学博物館
K-33 不漁時のハラン(供物奉納儀礼)	牛島 巖	
K-34		